

第6回室蘭市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定協議会議事録

1. 開催日時 平成24年2月21日（火）14：00～
2. 開催場所 室蘭市役所本庁舎2階大会議室
3. 出席委員 加藤会長、安田委員、内池委員、石川委員、工藤委員
井脇委員、細川委員、小林與志美委員、小林昌樹委員
藤井委員、吉田委員、草場委員、前田委員
- 事務局 小林保健福祉部長、國枝介護福祉課長、小栗主幹[介護保険]、
舩田主幹[福祉計画]、清水健康づくり課主幹、赤石福祉総務係長、
本野介護認定係長、滝沢介護保険係長

4. 会議内容

事務局

- （仮）高齢者いきがいボランティア制度の導入検討・・・説明
- 地域包括支援センターの体制強化・・・説明
- 地域支え合い情報ネットワークの活用促進・・・説明
- 高齢者地域支え合い体制の構築推進・・・説明
- 緊急通報システムの対象者拡大・・・説明
- 成年後見センター設置の推進・・・説明
- 白鳥大橋パークゴルフ場の増設・・・説明
- 市営住宅の建替え促進・・・説明
- 有料老人ホームやケアハウス（特定施設）の整備促進・・・説明
- 地域コミュニティ交通事業の検討・・・説明
- 介護保険サービスの充実 「安心して暮らす」・・・説明
- 介護保険事業費の見込み・・・説明

会長

一昨年の11月からスタートした、室蘭市の第5期室蘭市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定協議会は、今回で6回目を迎え終了となる。

6回は異例であり、それだけ皆さんの協議会への積極的な取り組みや、活発な意見が反映されたと思っている。

報告された第5期計画（案）の中には、地域支援体制の強化、ひとり暮らしの高齢者への支援など、これまでの協議会で討議された内容も加わって、様々な団体、また市民の代表である委員の皆さんが集結しました、大変実りある会議であったと思う。

A 委員

緊急通報システムの関連事業に、社協の見守り携帯を加えていただきたい。

事務局

加えさせていただく方向で考えたいと思う。

B 委員

えみなメイトを平成26年度にかけて、増やすという計画になっているが、どのように増やしていく流れになっているのか。

事務局

(えみなメイトが) 開始して6年経ち安定してきたが、その中で福祉委員が頑張っている所もあれば、町会が頑張っている所など様々。来年度も二つ増える。

いろいろ工夫しながら、少しずつ増やしていけたらと思っている。

C 委員

前回の素案からの追加項目がよくまとまっていると感じた。

室蘭市の高齢化が進んでいく中で、えみなメイトなど強めていかなければと思う。

住みなれたところで暮らすというところで、認知症でも在宅で暮らせる体制は必要。介護保険も、介護保険以外でも柱として認知症対策に努めていかなければと思う。

D 委員

緊急通報システムの対象者拡大で、2人暮らしで虚弱な方への設置拡大は、有意義だと思う。

居宅関係、地域密着サービス拡大の介護保険事業費で、平成26年に向けて、居宅、地域密着型の給付費が上昇していくかたちで数字に現れている。今後、サービス事業者がどれくらい出てくるか、問題があるかもしれないが、在宅で見ていく介護保険のサービスの活用という方向性が、打ち出せている計画になったという点は、高く評価したい。

保険料は、全道平均、全国平均よりは、低目に押さえているという理解で良いか。

事務局

(意図的に) 押さえたというわけではない。

D 委員

結果的には、安くなっているのですね。

今後、高齢化が進んでいくのと同時に、国の財政が不安なところもある。その時に、生活に密着する介護サービスが切られていくと大変なことになる。今後の財政状況の中でも、室蘭市ではこういうところに、必要なお金を投じることが出来ることが、重要だと思う。

E 委員

えみなメイトで、一部の指導員が熱心すぎて、高齢者には負荷が高い運動となり、事故が起きる可能性があるという事で、指導員の方を集めて病院のスタッフに、講習をしてもらったが、その後どうなったかは聞かない。一度、話しをする機会をつくって欲しい。

F 委員

デイサービスでも、利用料金が上がったところもあれば、一部についてはさがったり、また介護保険料が高くなるなど、ケアマネジャーとしても適切なマネジメントを行うにあたって、経済的な要因も有るという事も、今後の事業計画をつくる時の参考にして欲しい。

会長

この計画の素案が出た時点で、市では市民に公開し、意見を取った。

事務局

パブリックコメントの結果報告。

会長

29件という数字は、例年に比べてどうなのか。

事務局

大変多い。前回の時は一桁でした。障がい（の計画案）と一緒に（パブリックコメントの募集を）行ったが、障がいの方は3件。

G 委員

えみなメイトで、参加者の意見、感想を聞いていただけているのか。

参加者の感想とか要望とかいろいろあると思う。それを聞いていただけるような活動にしていきたい。

事務局

年に一回、講師の先生に集まっていただき、講習会、意見交換は開設当時からやっている。

運動の後に、話しをする機会も介護予防には必要だと思う。

不十分な点が多々あると思うので、今後とも意見を伺いながら、進めていきたい。

E 委員

高齢者にふさわしい運動という事は、ドクターの意見があれば一番良いが、せめて病院の理学療法士なり、そういう方の意見を事細かに聞いてやらないと、事故が起きてからでは遅い。

D 委員

一般的には、からだを動かした方が良いと世間では良くいうが、リスク管理しながら、えみなメイトを主催するというのも現実的ではない。参加される方自身が、運動負荷が自分にとって大丈夫なのか確認するのも大切。

B 委員

無理して自分で出来ないものを行っている人はいない。

H 委員

地域コミュニティ交通事業の検討を始めていくという事ですが、買い物難民が出そうな地域があるので、市内各地で事業が展開出来ていければ良い。交通安全・災害対策等の推進で、避難場所になっているところが、使えない会場もあるので、市全体含めて事態に備えて、個別避難支援プランとか、防災訓練を進めていただけると良い。

I 委員

認知症の高齢者の方が増えていくという事で、地域ケア会議の部分が中心になってくるのかと思う。

計画書自体、一步踏み出すには、非常に良い計画書だと思う。

J 委員

地域支え合い情報ネットワークの活用促進、高齢者地域支え合い体制の構築推進で、包括支援センターだけではやっていけない部分が多々あります。定期的に会議を設けて、情報を共有できるような機会があれば良い。

また、成年後見センター設置の推進、非常に良いと思う。

包括支援センターで、独居の方で身寄りが無く、お金の管理が出来ない認知症の方が、たくさん出てきている。

地域コミュニティ交通事業の検討で、市民の意見が反映されたと感じている。

K 委員

これから増えていく高齢者の中で、人それぞれだと思うが、それに見合ったサービスの提供、施設の内容が解らない人がいると思う。もう少しPRした方が良いと思う。

地域コミュニティ交通事業の検討で、買い物等、高台に住んでいて困っている方がたくさんいるので、至急、導入していただければと思う。

L 委員

計画の方向性は、市民のアンケートで、住みなれた家、街でという大きな問題になるので、地域コミュニティ交通事業を活用できるように検討を進めていただきたい。

高齢者いきがいボランティア制度の導入検討で、一般市民にPR出来る場を設けて、是非お願いしたい。

地域包括支援センターとの連携強化、室蘭市社会福祉協議会との連携強化で、定例的に意見交換をする場を設けて欲しい。

保健福祉部長

挨拶。

会長

この計画は今後3年間実施されますが、介護保険法が施行されてから11年経過しました。

この間、室蘭市でも65歳以上の人口が30.1%。いわゆる高齢社会に突入した。それに伴って要支援、要介護者も増加の一途を辿っている。

今後求められるのは、介護保険やサービスを使わないのが一番。健康で元気で身体的にも精神的にも自立していく事が、これからの私ども高齢者になる者の目指すべきものだと思う。

3年後には、第6期計画策定があるが、その時には更に突っ込んでいっていただきたい。

事務局

挨拶。